

子どもたちはどこへ

田村 信

今、世の中は想像を超えた早さで変化しています。

地球温暖化。それに伴う異常気象はテレビの中だけでなく、子どもたちは日々の生活の中で体感しているでしょう。災害が起きる時は、いつも想定外です。日頃の防災教育は、発災時子どもたちが一人でいても何をしたら良いかを教えてくれるはずです。

また、世界のどこかで紛争が起きています。ますます深まる力による争いと分断化。毎日見せつけられたら、何が正しいのかわからなくなります。もう戦いは止めよう、と世界の国々がつくった組織が理想通りに働けない状況にあるようです。子どもたちはどう思うのでしょうか。現実だから仕方ないと諦めるのでしょうか。こんな時だからこそ、国籍、信条、多様な人々の違いを乗り越えて、同じ人類として共に心も生活も豊かになることを私たちは掲げ続けなければならないでしょう。

近年A I やS N S等のデジタル技術が急速に進歩しています。A Iは医療、各種検査や製造分野等において、大変有用な道具として今後の発展が期待されています。が、一方では見逃すことが出来ない問題点も指摘されています。簡単に望むものを生成してもらえますので、面白いでしょうし、効率が良いでしょう。ですが、子どもたちにはどんな影響が有るのでしょうか。若いうちは、じっくり考える練習をしないと、脳の萎縮が進んでしまう様に思えてなりません。各界より思考力の低下や依存問題等への警鐘がならされています。ただ、既に相当量A Iが普及し、有用であることも事実です。中央教育審議会は間近に控えた次期学習指導要領においてA Iへの対応教育を強化する方針です。A Iを物事を探求する単なる道具の一つとして、子どもたちが使いこなせればと思います。また、S N Sの使われ方も懸念されるところです。犯罪に直結する例も多々見受けられます。そして、たった一人の意見があたかも多数意見であるかの如くに扱われ、それが誹謗中傷であればより拡散しやすい現実があります。これは心の奥底に潜むものがS N Sと結びついて現れた困った現象で、一刻も早く解消されるべきものでしょう。A IもS N Sも二面性が有ります。子どもたちの発達段階に応じた指導を行うことにより、正しく利用できるようになってもらいたいです。

子どもたちを廻る環境は常に変化し、新たな壁が現れます。自分がどこへ向かって進むのか、何をすべきなのか。自ら考え、何度挑戦しても壁を乗り越えてもらいたいです。そのためには子どもたちの自己肯定感を育み、夢や希望を叶えられるよう寄り添えればと思います。